

教職科目

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
国語科教育論Ⅰ	国語教育と国語科教育の 基礎を学ぶ。	4	挽地 裕之	通年	水曜2限
国語科教育論Ⅱ	国語科教育論Ⅱ	4	小川 典昭	通年	水曜1限
英語科教育論Ⅰ	中等英語科教育の理論と 実践 	4	鈴木 渉	通年	木曜5限
英語科教育論Ⅱ	英語科教育法・応用言語 学の理論と実践	4	横内 裕一郎	通年	木曜3限
フランス語科教育法Ⅰ	フランス語教育法入門(1)	2	黒岩 卓	5	火曜1限
フランス語科教育法Ⅱ	フランス語教育法入門(2)	2	黒岩 卓	6	火曜1限
地理歴史科教育法Ⅰ	高等学校の地理授業の設 計と実践	2	講師(非)	5	木曜1限
地理歴史科教育法Ⅱ	高等学校の歴史授業の設 計と実践	2	下山 忍	6	水曜2限
宗教科教育法Ⅰ	ポスト多文化主義教育が 描く宗教	2	高橋 原	5	金曜1限
宗教科教育法Ⅱ	宗教教育の問題点	2	高橋 原	6	金曜1限

科目名：国語科教育論 I

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：3 **単位数：**4.00 単位

担当教員：挽地 裕之

コード：LB93201, **科目ナンバリング：**LHM-EDU901J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：国語教育と国語科教育の基礎を学ぶ。

2・授業の目的と概要：①国語科教育の基礎基本を身につける。
②国語科教育の周辺を知り多角的な視点から分析できる力をつける。

3. 学習の到達目標：講義毎の学習内容を言語化することができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- ①国語教育と国語科教育の違い。
- ②国語科教育以前 1 (体験的教育論)。
- ③国語科教育以前 2 (授業)。
- ④国語科教育以前 3 (学びと消費活動) など

5. 成績評価方法：出席 (1 講義参加で 2 点×30 回)、レポート課題 (20×2 前期・後期)

6. 教科書および参考書：オリジナルテキスト (毎時間配布)、学習指導要領。

7. 授業時間外学習：課題図書 of レポート。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

毎時間、3 人一組でディスカッションします。

科目名：国語科教育論Ⅱ

曜日・講時：水曜 1 限

セメスター：3 **単位数：**4.00 単位

担当教員：小川 典昭

コード：LB93101, **科目ナンバリング：**LHM-EDU902J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：国語科教育論Ⅱ

2・授業の目的と概要：中学校や高等学校の国語科における授業づくりの実践的な技能を身につけ国語の授業づくりの特質を踏まえて、教材研究や発問づくり、指導案の作成、模擬授業等を実践的に行う

3. 学習の到達目標：国語科における指導案の作成や学習指導・評価等の知識や技能を身につけ、教壇実習ができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：教師の魅力～国語科が育む生きる力
- 第2回：いま求められる国語の力とは（全国学力テスト小学校国語科テストをもとに）
- 第3回：いま求められる国語の力とは（全国学力テスト中学校国語科テストをもとに）
- 第4回：国語の授業づくりの特質について①（なぜ日本語を学ぶのか？なぜ教えるのか？）
- 第5回：国語の授業づくりの特質について②（心に残る国語教室の本質を探る）
- 第6回：国語の授業づくりの特質について③（小中高国語教室の実践からⅠ）
- 第7回：国語の授業づくりの特質について④（小中高国語教室の実践からⅡ）
- 第8回：教材研究の方法と発問・課題づくりについて①（読むことに関する高校教材を中心に）
- 第9回：教材研究の方法と発問・課題づくりについて②（読むことに関する中学校教材を中心に）
- 第10回：教材研究の方法と発問・課題づくりについて③（話すこと・聞くことに関する教材を中心に）
- 第11回：教材研究の方法と発問・課題づくりについて④（書くことに関する教材を中心に）
- 第12回：国語科が目指す「主体的・対話的で深い学び」①（学習形態の機能と授業設計－読む書く聞く）
- 第13回：国語科が目指す「主体的・対話的で深い学び」②（学習形態の機能と授業設計－机間指導と発問）
- 第14回：国語科が目指す「主体的・対話的で深い学び」③（学習形態の機能と授業設計－ペア学習の効果）
- 第15回：発展的な内容や課題に係る授業づくりについて①（韻文指導）
- 第16回：発展的な内容や課題に係る授業づくりについて②（情報機器の活用）
- 第17回：発展的な内容や課題に係る授業づくりについて③（音読指導）
- 第18回：発展的な内容や課題に係る授業づくりについて④（古典指導）
- 第19回：学習指導案の構成について
- 第20回：授業設計と学習指導案の作成について（小説教材を中心に）
- 第21回：模擬授業の実施①（A グループ）
- 第22回：模擬授業の実施②（B グループ）
- 第23回：模擬授業の実施③（C グループ）
- 第24回：模擬授業の実施④（D グループ）
- 第25回：模擬授業の実施⑤（E グループ）
- 第26回：模擬授業の実施⑥（F グループ）
- 第27回：模擬授業の振り返りと授業改善について①（自己評価を中心に）
- 第28回：模擬授業の振り返りと授業改善について②（相互評価を中心に）
- 第29回：学習評価の実際と課題について
- 第30回：国語科の実践研究の動向と課題について

5. 成績評価方法：平常点（40％）・模擬授業（30％）・レポート（30％）

6. 教科書および参考書：『中学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省刊）※最新刊
『高等学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省刊）※最新刊

7. 授業時間外学習：説明・評論文や小説等の教材研究、学習指導案づくりなどを各自事前に行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

○

9. その他：

科目名：英語科教育論Ⅰ

曜日・講時：木曜 5 限

セメスター：3 **単位数：**4.00 単位

担当教員：鈴木 渉

コード：LB94501, **科目ナンバリング：**LHM-EDU903J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：中等英語科教育の理論と実践

2・授業の目的と概要：学習指導要領、教科用図書、音声指導、語彙・表現指導、文法指導、文字指導、英語でのやり取り、生徒の特性や習熟度に応じた指導、評価等に関する内容を扱う。

3. 学習の到達目標：中学校及び高等学校における英語科教育の基礎を身に付ける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

”第1回目：シラバス説明、自己紹介、英語を教えるとはどういうことか

第2回目：聞くことの指導 (1) 講義

第3回目：聞くことの指導 (2) 演習

第4回目：読むことの指導 (1) 講義

第5回目：読むことの指導 (2) 演習

第6回目：話すことの指導 (1) 講義

第7回目：話すことの指導 (2) 演習

第8回目：書くことの指導 (1) 講義

第9回目：書くことの指導 (2) 演習

第10回目：領域統合の指導 (1) 講義

第11回目：領域統合の指導 (2) 演習

第12回目：ペア・グループワークの指導 (1) 講義

第13回目：ペア・グループワークの指導 (2) 演習

第14回目：発音指導 (1) 講義

第15回目：発音指導 (2) 演習

第16回目：語彙指導 (1) 講義

第17回目：語彙指導 (2) 演習

第18回目：生徒の特性や習熟度に応じた指導 (1) 講義

第19回目：生徒の特性や習熟度に応じた指導 (2) 演習

第20回目：評価 (1) 講義

第21回目：評価 (2) 演習

第22回目：見方・考え方を働かせた授業

第23回目：言語活動を通して指導する

第24回目：コミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導

第25回目：指導案作成

第26回目：模擬授業①

第27回目：模擬授業②

第28回目：模擬授業③

第29回目：模擬授業④

第30回目：模擬授業⑤、まとめ”

5. 成績評価方法：指導案 (30%)、模擬授業 (30%)、テスト/レポート (30%)、授業に対する貢献 (10%)

6. 教科書および参考書：”・鈴木渉 (2017) 『実践例に学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』大修館書店

・文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領 (平成 29 年度告示) 解説 外国語編』開隆堂出版

・文部科学省 (2019) 『高等学校学習指導要領 (平成 30 年度告示) 解説 外国語編・英語編』開隆堂出版

・文部科学省 (2020) 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校外国語』

・文部科学省 (2021) 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校外国語外国語』 ”

7. 授業時間外学習：教科書の予習・復習各 1 時間、レポート・プレゼンテーション作成 2 時間、計 4 時間の授業外学習が必要

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

○

9. その他：

科目名：英語科教育論Ⅱ

曜日・講時：木曜 3 限

セメスター：3 **単位数：**4.00 単位

担当教員：横内 裕一郎

コード：LB94301, **科目ナンバリング：**LHM-EDU904J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：英語科教育法・応用言語学の理論と実践

2・授業の目的と概要：英語教育学，応用言語学に関する知識を養い，それらの知識を指導に活用できるようになるための内容を扱う。

3. 学習の到達目標：・英語科教育法・応用言語学の基礎的知識を身につける。

・教材研究や模擬授業を通じ，指導上の基礎を固める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回目：ガイダンス・応用言語学と第2言語教育

第2回目：言語習得の基本モデル(1)

第3回目：言語習得の基本モデル(2)

第4回目：言語の対照(1)

第5回目：言語の対照(2)

第6回目：言語処理(1)

第7回目：言語処理(2)

第8回目：学習者特性Ⅰ(1)

第9回目：学習者特性Ⅰ(2)

第10回目：学習者特性Ⅱ(1)

第11回目：学習者特性Ⅱ(2)

第12回目：言語教授法の確立(1)

第13回目：言語教授法の確立(2)

第14回目：レポートピアレビュー

第15回目：テスト・前期振り返り

第16回目：現代の言語教授法(1)

第17回目：現代の言語教授法(2)

第18回目：言語能力観(1)

第19回目：言語能力観(2)

第20回目：言語能力の評価(1)

第21回目：言語能力の評価(2)

第22回目：応用言語学の新しい展開

第23回目：教材研究(1)

第24回目：指導案作成(1)

第25回目：模擬授業(1)

第26回目：教材研究(2)

第27回目：指導案作成(2)

第28回目：模擬授業(2)

第29回目：テスト作成演習

第30回目：テスト・後期振り返り

※授業の進度等によって授業内容に変更が生じる場合があります。

5. 成績評価方法：テスト：20%

レポート：20%

指導案：20%

模擬授業：20%

輪読発表：20%

6. 教科書および参考書：・石川慎一郎(2023).『ベーシック応用言語学 第2版 L2の習得・処理・学習・教授・評価』ひつじ書房

・NEW CROWN English Series 2 三省堂

7. 授業時間外学習：授業の予復習，テスト対策やレポート・プレゼンテーション準備のため，週に4時間の授業外学習が求められる。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

○

9. その他：

科目名：フランス語科教育法Ⅰ

曜日・講時：火曜 1 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：黒岩 卓

コード：LB92101, **科目ナンバリング：**LHM-EDU909J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：フランス語教育法入門（1）

2. 授業の目的と概要：フランス語教育学についての基礎的な知識を得る。

3. 学習の到達目標：フランス語を教える上での実践的なイメージが得られるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 オリエンテーション

第2回 目的（1）

第3回 目的（2）

第4回 教え方（1）

第5回 教え方（2）

第6回 教室運営（1）

第7回 教室運営（2）

第8回 目標の設定（1）

第9回 目標の設定（2）

第10回 教育プログラム（1）

第11回 教育プログラム（2）

第12回 授業運営（1）

第13回 授業運営（2）

第14回 まとめ（1）

第15回 まとめ（2）

（内容は予定であり、変更があり得ます）

5. 成績評価方法：出席点（100％）

6. 教科書および参考書：Le FLE en questions: Enseigner le français langue étrangère et seconde, sous la direction de Jean-Marc Defays, Mardaga, 2020.（教科書の入手方法などについては最初の授業で解説します）

7. 授業時間外学習：毎回フランス語のテキストを講読しますので、その予習が必要になります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

フランス語の基礎的な読解力が必要になります。

科目名：フランス語科教育法Ⅱ

曜日・講時：火曜 1 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：黒岩 卓

コード：LB92102, **科目ナンバリング：**LHM-EDU910J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：フランス語科教育法入門（2）

2・授業の目的と概要：フランス語教育学についての基礎的な知識を得る。

3. 学習の到達目標：フランス語を教える上での実践的なイメージが得られるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

Session 1: Orientation

Session 2: What students have already learned (1)

Session 3: What students have already learned (2)

Session 4: Communication (1)

Session 5: Communication (2)

Session 6: Grammar (1)

Session 7: Grammar (2)

Session 8: Evaluation (1)

Session 9: Evaluation (2)

Session 10: Immigration (1)

Session 11: Immigration (2)

Session 12: Culture (1)

Session 13: Culture (2)

Session 14: Summary (1)

Session 15: Summary (2)

(The contents are tentative and subject to change)

5. 成績評価方法：出席点（100％）

6. 教科書および参考書：

7. 授業時間外学習：毎回フランス語のテキストを講読しますので、その予習が必要になります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

フランス語の基礎的な読解力が必要になります。

科目名：地理歴史科教育法 I

曜日・講時：木曜 1 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：講師（非）

コード：LB94101, **科目ナンバリング：**LHM-EDU913J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：高等学校の地理授業の設計と実践

2・授業の目的と概要：高等学校学習指導要領における地理科目の指導内容のポイントとその具体的展開や教材の取扱いを学び、学習指導案を作成できる実践的な指導力を育成する。

3. 学習の到達目標：①これまでの高校学習指導要領に位置付けられた地理科目の変遷を理解し、その概要を述べることができる。

②新教育課程における地理科目について、目標と指導内容、指導の具体的展開、教材の取扱いのポイントを理解し、授業づくりを進めることができる。

③学習指導案の役割や内容を理解し、地理科目の学習指導案を作成することができる。

④作成した学習指導案に基づいて討議し、授業改善について考えることができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回 ガイダンス 「主体的・協働的で深い学び」とは？

第 2 回 1947-1954 年の高校地理教育

第 3 回 1955-1987 年の高校地理教育

第 4 回 1988 年以降の高校地理教育

第 5 回 地理総合 (1) 地図と GIS

第 6 回 地理総合 (2) 生活文化の多様性と国際理解

第 7 回 地理総合 (3) 地球的課題と国際協力

第 8 回 地理総合 (4) 自然災害と防災

第 9 回 地理探究 (1) 自然環境

第 10 回 地理探究 (2) 産業。人口。都市

第 11 回 地理探究 (3) 文化、民俗、宗教、観光、交通

第 12 回 地理探究 (4) 地誌

第 13 回 授業案の相互検討 (1)

第 14 回 授業案の相互検討 (2)

第 15 回 授業案の相互検討 (3)

5. 成績評価方法：授業への参加態度 (30%) 授業中に課したミニレポート (30%) 授業案の作成と、それに基づく討議並びに授業案の改善 (40%)

6. 教科書および参考書：教科書：・文部科学省 (2018)：『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 地理歴史編』，東洋館出版社（文部科学省 HP よりダウンロード可能）。

https://www.mext.go.jp/content/20211102-mxt_kyoiku02-100002620_03.pdf

7. 授業時間外学習：課題レポートへの取組、学習指導案の作成、模擬授業に向けた教材研究などを行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

なし

科目名：地理歴史科教育法Ⅱ

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：下山 忍

コード：LB93202, **科目ナンバリング：**LHM-EDU914J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：高等学校の歴史授業の設計と実践

2・授業の目的と概要：高等学校学習指導要領における歴史科目の指導内容のポイントとその具体的展開や教材の取扱いを学び、学習指導案を作成して模擬授業を行える実践的な指導力を育成する。

3. 学習の到達目標：①新教育課程における歴史科目について、目標と指導内容、指導の具体的展開、教材の取扱いのポイントを理解し、授業づくりを進めることができる。

②学習指導案の役割や内容を理解し、歴史科目の学習指導案を作成することができる。

③作成した学習指導案に基づいて、(模擬) 授業を行うことができる。

④(模擬) 授業の評価を基に、授業改善について考えることができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション、地理歴史科改訂のポイント

第2回：「歴史総合」について

第3回：「日本史探究」について

第4講：「世界史探究」について

第5講：「歴史総合」の授業の実際(A「歴史と私たち」)

第6回：「歴史総合」の授業の実際 (A「歴史の特質と資料」)

第7回：「歴史総合」の授業の実際 (B「近代化への問い」)

第8回：「歴史総合」の授業の実際 (B「結び付く世界と日本の開国」)

第9回：「日本史探究」の授業の実際 (「時代を通観する問い」の表現)

第10回：「世界史探究」の授業の実際 (A「世界史へのまなざし」)

第11回：学習指導案の書き方、教材研究の方法

第12回：模擬授業実施とルーブリックによる相互評価(1)

第13回：模擬授業実施とルーブリックによる相互評価(2)

第14回：模擬授業実施とルーブリックによる相互評価(3)

第15回：模擬授業の振り返り、相互評価結果を基にした授業改善レポートの作成

5. 成績評価方法：学習指導案の作成及びそれに基づく模擬授業 (70%)、授業への参加態度等 (30%)

6. 教科書および参考書：文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編』東洋館出版社
『歴史総合 近代から現代へ』(山川出版社、歴史総合教科書)

『詳説日本史』(山川出版社、日本史探究教科書)

『詳説世界史』(山川出版社、世界史探究教科書)

『問いからはじまる歴史総合』(東京法令出版、歴史総合補助教材)

※参考書等は授業中に指示

7. 授業時間外学習：授業時間外に学習指導案の作成、模擬授業づくりの準備等を行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：宗教科教育法Ⅰ

曜日・講時：金曜 1 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：高橋 原

コード：LB95101, **科目ナンバリング：**LHM-EDU915J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：ポスト多文化主義教育が描く宗教

2・授業の目的と概要：指定テキストに沿って、海外の事例を参考に、多文化が共存する社会において学校教育において宗教を教えることが持つ意味を学ぶ。

3. 学習の到達目標：海外の事例を参考に、日本における宗教教育の課題を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

藤原聖子『ポスト多文化主義教育が描く宗教』（岩波書店、2017）を講読の形で読み進める。

- (1) イントロダクション
- (2) 宗教と教育におけるコミュニタリアンの転回(1)
- (3) 宗教と教育におけるコミュニタリアンの転回(2)
- (4) ディスカッション
- (5) 「宗教と暴力」の学習方法——日英教科書比較(1)
- (6) 「宗教と暴力」の学習方法——日英教科書比較(2)
- (7) ディスカッション
- (8) イギリスの宗教教育史——コミュニタリアンの転回以前(1)
- (9) イギリスの宗教教育史——コミュニタリアンの転回以前(2)
- (10) ディスカッション
- (11) 共同体の結束へ——二〇〇〇年代以降の宗教教育
- (12) 異文化理解型からどう変化したか——二〇一〇年代の教科書の分析 1
- (13) 公共的宗教の諸相——二〇一〇年代の教科書の分析 2
- (14) コミュニタリアンの転回の功罪
- (15) まとめ

5. 成績評価方法：毎回の出席と発表内容による。

6. 教科書および参考書：藤原聖子『ポスト多文化主義教育が描く宗教』岩波書店、2017

7. 授業時間外学習：授業内で指示する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

教科書購入必須。

原則として、受講者は教員採用試験受験を予定しており、宗教科の教員免許を取得しようとしているものに限る。

科目名：宗教科教育法Ⅱ

曜日・講時：金曜 1 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：高橋 原

コード：LB95102, **科目ナンバリング：**LHM-EDU916J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：宗教教育の問題点

2. 授業の目的と概要：中学生高校生に宗教を教える際の問題点を学ぶ。

3. 学習の到達目標：世界の諸宗教について教える際の問題点を分かりやすく説明できるようにする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

(1)イントロダクション (2)日本の宗教 1 (3)日本の宗教 2 (4)日本の宗教 3 (5)日本の宗教 4 (6)日本の宗教 5 (7)世界の宗教 1 (8)世界の宗教 2 (9)世界の宗教 3 (10)世界の宗教 4 (11)世界の宗教 5 (12)世界の宗教 6 (13)現代の宗教 1 (14)現代の宗教 2 (15)まとめ

5. 成績評価方法：期末レポートによる。

6. 教科書および参考書：Religion in the Classroom: Dilemmas for Democratic Education
by Jennifer Hauver James , Simone Schweber , et al. Routledge; 1st edition (December 22, 2014)

7. 授業時間外学習：授業内で指示する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

原則として、受講者は教員採用試験受験を予定している教員志望者で、前期に宗教科教育法Ⅰを履修し、宗教科免許取得を希望している者とする。